《課題名》

胃癌穿孔症例の後方視的検討

《対象者》

当院で 2006 年から 2026 年 3 月までに胃癌穿孔で入院加療を受けた患者さん

研究協力のお願い

当科では「胃癌穿孔症例の後方視的検討」という研究を行います。この研究は、当院で 2006 年から 2026 年 3 月までに胃癌穿孔で入院して治療を受けた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。また希望されれば、計画書等研究に関連する資料を個人情報保護と研究に支障がない範囲に限り閲覧することができます。

（1）研究の概要について

研究課題名： 胃癌穿孔症例の後方視的検討

研究期間： 承認日～2033 年 3 月 31 日

実施責任者： 滋賀医科大学 消化器外科 講師 貝田 佐知子

（2）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

胃癌穿孔は急性に発症し、速やかに治療することが必要な疾患ですが、悪性疾患としての根治性も考慮する必要があり、治療方針の決定には個々の症例で難渋することの多い疾患でもあります。腹膜炎の治療が成功したとしても、その後の癌の治療を行う必要もあります。また急な腹痛で発症することが多いため、治療方針は迅速に決定する必要があり、最初の治療内容は保存的に加療するか、一期的に手術で腹膜炎を治療し、かつ胃癌も切除するか、二期に分けて腹膜炎の手術と胃癌の切除を別々に行うなど、様々です。

このように多岐にわたる治療方針と治療成績との関連性を後方視的に検討することで、今後の臨床における治療方針の指標となる可能性があります。

（3） 研究の方法について

《研究の方法》

既存の臨床結果を用いた観察研究です。当院で 2006 年から 2026 年 3 月までに胃癌穿孔に対する治療を入院しておこなった患者さんの臨床経過、検査値を評価します。また、電子カルテより患者さんの年齢、性別、術前腫瘍マーカー、腫瘍部位、組織型、腫瘍深達度、リンパ節転移、脈管浸潤、リンパ管浸潤、肝転移、肺転移、腹膜播種、病期、再発といった情報を利用します。

(4)予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

（5）個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

（6）研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

（７）利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、下記（８）にご連絡ください。

（８）問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学　消化器外科　　講師　　貝田　佐知子

住所：520-2192　滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：　077-548-2238

メールアドレス：　hqsurge1@belle.shiga-med.ac.jp